

令和 2 年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

商工観光部



目 次

外国人材の雇用・生活支援	1
インターンシップの活用促進	2
飛騨市推奨特産品の活用促進	3
商工業活性化包括支援事業	4
モノづくり事業者の育成支援	5
ネットショップ運営人材の育成支援	6
小規模事業者の BC（事業継続）支援	7
飛騨えごまの里づくりの推進	8
飛騨古川まつり会館の集客対策	9
英語版飛騨市観光 Web サイトのリニューアル	10
飛騨市総合パンフレットのリニューアル	11
フードダイバーシティの推進	12
シェアリング・エコノミーの活用推進	13
古川まつり広場を活用した新たな魅力の創出	14
飛騨みんなの博覧会の開催	15
ロケツーリズムの推進	16
大学観光学部等との連携強化	17
合宿・大会等の誘致推進	18
飛騨市観光大使の活用	19
観光人材の育成	20
観光客の動向実態調査	21
飛騨市観光戦略プランの策定	22
まちのみだしなみ整備	23

[拡充] 外国人材の雇用・生活支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
3,800	一般財源	3,800
		補助金 2,910
		報償費 360
		その他 530
(前年度予算 2,784)		

2 事業背景・目的

人口減少に伴う労働力不足が全国的に問題となる中、市内事業者では外国人技能実習制度の活用事例が増加しています。

市もこうした動きに呼応し、平成29年度より通訳支援の制度化、住まいの確保、就職奨励金の交付、トライアル雇用の拡大など、「技能実習生」という枠組みに捕らわれず、全ての外国人就労者を対象とした幅広い支援に取り組んできました。

令和2年度は、これまで取り組んできた事業を全て継続するとともに、新たに事業者間の意見交換会を開催し、更なる外国人材の雇用・就労対策を推進します。

3 事業概要

①【新規】人事担当者向け意見交換会の開催（ゼロ予算）

既に外国人材を採用している事業所と今後採用を検討している事業所の人事担当者による意見交換会を開催し、事業者間の情報共有を図ります。

②【継続】外国人材を活用する事業者の支援（2,410千円）

業務上のコミュニケーションのための言語通訳や採用面接時の渡航費用の補助、住まい確保と空き家対策を両立する空き家社宅化利用の推進、公共職業安定所のトライアル雇用制度の活用など、外国人材の積極的な雇用に取り組む事業者を支援します。

③【継続】外国人材のスキルアップと生活支援（1,390千円）

最長3年間の就職奨励金を交付することで、外国人材から選ばれる就業地を目指すとともに、派遣型日本語教室の開催による日本語能力の向上、地域のルールや生活文化等に対応する相談員の派遣、事業所間の外国人材同士の交流会などにより、個人の能力を高め、安心して生活できる環境づくりに取り組みます。

(款)	5 労働費	(項)	1 労働諸費
(目)	1 労働諸費		1 労働諸費
所 属	商工観光部商工課 TEL0577-62-8901		予算書 P.90

拡充 インターンシップの活用促進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
500	一般財源	500 補助金
(前年度予算 600)		500

2 事業背景・目的

市では、将来を担う若者の地元就職及び定住促進を目的として、インターンシップ制度を活用し学生の就労体験を受け入れる事業者への支援に取り組んでいます。

これまでも事業者のニーズ等を踏まえた柔軟な運用を図ってきましたが、あらゆる産業において人手不足が深刻化する中にあることは、インターンシップの有用性を周知し、活用を促していくことが重要です。

こうした状況を踏まえ、令和2年度より補助対象者等を拡充するとともに、企業の情報発信力強化セミナーにおいて、改めてインターンシップ制度を学ぶ機会を設けることで、事業者の意識啓発を図ります。

これにより、就労体験の受け入れを更に促進し、飛騨市への就業と定住を希望する人の増加を目指します。

3 事業概要

市内でインターンシップを受け入れる事業者に対し、就労体験者の受け入れ等に要する費用の一部を支援します。

- ・ 補助対象となる就労体験者の範囲を、これまでの学生（就活生）のみから、在学中の高校生や一般求職者にまで拡大します。
- ・ 新たにインターンシップのマッチングサイトやコーディネーター等の活用に係る費用についても支援します。（補助率1/2、限度額20万円）



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	商工観光部商工課		Tel.0577-62-8901	予算書	P.104

拡充 飛騨市推奨特産品の活用促進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
729	一般財源	729
		需用費 330
		委託料 308
		その他 91
(前年度予算 915)		

2 事業背景・目的

飛騨市内の優れた地場産品のブランド化、差別化を図り、市としての公式なPRを可能とするため、平成28年度から飛騨市推奨特産品認定制度を導入し、令和元年度までに23商品を認定しています。

厳正な審査に基づく認定を受けようとすることは、それ自体が商品の話題性や認知度を高めるとともに、事業者にとっても自社商品により誇りを持ち、今後の意欲の向上にもつながることになります。

令和2年度は、引き続き魅力的な商品の開発を促すことで認定件数の増加を図るとともに、ふるさとの自慢である推奨特産品の市内外へのPR強化に取り組みます。

3 事業概要

①【拡充】飛騨市推奨特産品の認知度向上と販売促進（638千円）

市外では各種物産展やバイヤー向け展示会を中心に推奨特産品のPRを推進するとともに、市内では土産物売り場等に推奨特産品の特設コーナーを設置し、訪れた観光客などに強い印象を与え、手に取っていただけるよう、のぼり旗や表示スタンド等を整備することで、他の商品との差別化を図ります。

②【継続】飛騨市推奨特産品の認定（91千円）

外部有識者も交え、市推奨を冠するに相応しい優れた特産品の認定を行います。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	商工観光部商工課		Tel.0577-62-8901	予算書	P.102

拡充 商工業活性化包括支援事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
20,000	ふるさと創生基金 20,000	補助金 20,000
(前年度予算 20,000)		

2 事業背景・目的

市内における商店は年々減少しており、売上げの減少、事業者の高齢化、後継者問題などその理由は多岐に渡ります。その一方で、更なる販路拡大を目指す既存事業者や起業される方も増えてきています。

令和元年度に引き続き、積極的に市外の顧客を取り込もうとするやる気のある事業者が豊富な補助メニューの中から柔軟に選択できる包括的な支援制度を継続するとともに、実情に合わせた制度の拡充を図り、市内商工業の振興を目指します。

3 事業概要

市内製品の知名度向上の取り組みを更に強化するため、商標権、特許権、実用新案権等の権利取得を促進します。また市内既存宿泊業者の改装に対する補助率を引き上げることで、魅力ある宿泊施設の充実化を目指します。

①【新規】知的財産権取得促進補助事業

市内事業者の知的財産の保護・権利化に要する費用の一部を補助することで、競争力を強化し、産業の振興及び地域経済の活性化を図ります。

補助率：1/2 (上限10万円)

②【拡充】飛騨市店舗リニューアル補助事業

店舗リニューアル補助制度において、市が認める宿泊業(ホテル・旅館・簡易宿所)については補助率を引上げることで、魅力ある宿泊施設への改装を促進します。

補助率：1/3 ⇒ 1/2 (上限150万円)

③【継続】その他の支援制度

起業化促進、店舗拡大・立地促進、店舗改修、機器導入・環境整備、商品開発など、市内の商工業の活性化に向けた豊富な支援メニューを継続します。

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	商工観光部商工課		TEL0577-62-8901	予算書	P.104

継続 モノづくり事業者の育成支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
3,850	国庫補助金 1,925 一般財源 1,925	委託料 3,850

(前年度予算 3,234)

2 事業背景・目的

市内のモノづくり事業者が全国規模の競争に勝ち残っていくためには、優れた工芸品、加工食品や地酒等の特産品の魅力と強みを事業者自身が理解した上で市外に発信し、地域外から顧客を獲得していくとともに、購入をきっかけにして飛騨市への訪問につなげるなど、ファンの獲得もあわせて進めていく必要があります。

市では平成30年度から4年間の事業として、モノづくり事業者の意識改革と経営力向上を目的に、飛騨市の認知度や地域・商品ブランド力を高め、販路を拡大する取り組みを進めています。これまでに首都圏での販売に対応できる商品造成への助言など事業者に寄り添った支援に加え、都心実店舗での実証販売により販売力向上への気づきを与え、飛騨市の認知度向上を図るとともに、商品・ブランド開発に取り組んできました。

令和2年度も引き続きブランディングの推進と認知度向上を図り、プロジェクト最終年となる令和3年度には首都圏でのアンテナショップの開設を目指します。

3 事業概要

作り手の思いを伝えるための商品のブラッシュアップや新たな商品開発のための事業者訪問とアドバイスを継続するとともに、東京オリンピック開催により国内外からの多くの人で賑わうことが予想される首都圏での実証販売チャンネルを拡充し、より多くの人に飛騨市の商品とその作り手を知り、購入してもらう機会を増やします。

また、これらの取り組みを通して参加事業者の経営力やマーケティング力向上を促し、飛騨市の魅力を発信できる事業者を育成します。



(当該事業開発商品の統一ロゴマーク)

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	商工観光部商工課 TEL0577-62-8901			予算書	P.103

継続 ネットショップ運営人材の育成支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
3,242	一般財源	3,242	委託料	2,442
			補助金	800

(前年度予算 4,581)

2 事業背景・目的

飛騨市の特産品の販路拡大には、実店舗のみの販売ではなくネットショップの活用が必要不可欠です。

市では平成30年度からネットショップ運営人材の育成支援を開始し、令和元年度には伴走型支援としてネットショップ未開設者から既の実績をあげている事業者まで広く対象とした「飛騨市ネットショップ倶楽部」を立ち上げました。

令和2年度も、講師はもちろんネットショップ店長同士がコミュニティを形成し、お互いに情報や戦略を共有しながら、切磋琢磨し合えるよう支援を継続します。

3 事業概要

① ネットショップ運営事業委託料 (2,442千円)

販売計画や進捗管理、顧客の心をつかむ販売方法の勉強などを具体的に学ぶセミナーの開催やWebサイトの操作方法を学ぶ相談支援を継続するとともに、新たな参加希望者を募り、各々のレベルに合わせた体制を敷くことで、より適切な支援を図ります。

② ネットショップ事業拡大支援補助金 (800千円)

本事業に参加し、新たにインターネットショッピングサイトに新店を出す事業者に対し、初回の新規出店料と1年分の月額出店料を支援します。

補助率：1/2 (上限16万円)



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	商工観光部商工課		TEL0577-62-8901	予算書	P.103

拡充 小規模事業者のBC（事業継続）支援

1 事業費 （単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
150	一般財源	150 委託料

（前年度予算 150 ）

2 事業背景・目的

令和元年10月に発生した台風19号は、各地で極めて甚大で広範囲にわたる被害をもたらした。全国390市区町村が災害救助法の適用を受ける異例の事態となりました。

こうした大規模災害の発生時に、一日でも早く市内の商工業者が事業を再開できるよう、事業者ごとに事前の防災・減災計画を策定しておくことが重要です。

また、令和元年7月の小規模事業者支援法の改正により、商工団体及び市町村が共同で小規模事業者の事業継続力強化を支援する旨が明記されたことも踏まえ、引き続きセミナーの開催等により小規模事業者の支援に取り組みます。

3 事業概要

○ 小規模事業者向け事業継続力強化セミナーの開催（150千円）

令和元年度に施行された中小企業強靱化法には、事業継続力強化認定制度が新しく盛り込まれ、小規模事業者の防災・減災に関する計画を経済産業大臣が認定することで、税制優遇や金融支援などの支援策が受けられます。

参加事業者が事業継続力強化計画をその場で作成できる実践的なセミナーを開催するとともに、セミナー受講者が行う減災・防災設備の導入に対する信用保証料を全額補給（通常は1/2補給）に拡充することで、参加意欲の向上を図ります。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	商工観光部商工課 TEL0577-62-8901			予算書	P. 103

[拡充] 飛騨えごまの里づくりの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
300	雑入 300 (選別機利用負担金)	負担金 300
(前年度予算 671)		

2 事業背景・目的

飛騨えごまの里推進プロジェクトは、飛騨地域産えごまの消費拡大と市民の健康増進を目指した農商工連携の取り組みです。

平成28年度より新品種「飛系アルプス1号※」の生産拡大を開始し、平成30年度は農商工連携のプラットフォームとなる「飛騨えごまの里推進協議会」を立ち上げ、新商品開発や情報発信を強化するとともに、良質なえごまを販売するための選別機を導入するなど、取り組みの推進を図ってきました。

令和2年度は、市を訪れた観光客等に対して「えごまの里」をより強く印象付けるため、紹介ツールの作成や語り部の育成を行います。

※平成25年2月に岐阜県、飛騨市、アルプス薬品工業㈱と共同でルテオリン等の成分を多く含む品種を「飛系アルプス1号」として登録したものです。

3 事業概要

○ 飛騨えごまの里推進プロジェクト (300千円)

飛騨えごまの里協議会を主体として、卓上メニュー表（三角ポップ等）を作成し、市内飲食店に配布するとともに、飲食店の従業員等がえごまの魅力や調理法などを観光客等に紹介できるよう、勉強会の開催等により語り部の育成に取り組みます。

また、「飛騨えごま月間」の開催など、引き続きえごまの活用促進に向けた活動を行います。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	商工観光部商工課 Tel0577-62-8901			予算書	P.104

新規 飛騨古川まつり会館の集客対策

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】				
4,500	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">国庫補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,250</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">2,250</td> </tr> </table>	国庫補助金	2,250	一般財源	2,250	委託料 4,500
国庫補助金	2,250					
一般財源	2,250					

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

令和元年度に展示装飾を刷新し、令和2年4月にリニューアルオープン予定の飛騨古川まつり会館において、リニューアルによる集客効果を一時的なものに終わらせないよう、定期的に企画展示及びイベントなどを実施することで、市内外を問わず一度訪れた方でも何度も再訪したくなるような魅力的な集客対策を展開し、初年度の入館者目標25,000人に向けて、新規顧客とリピーターの獲得に取り組みます。

3 事業概要

まつり会館を起点とした集客対策を随時開催します。

特に一度来館すればよいということにはならないよう、期間限定企画展等を開催することで、地域住民も含めた再訪を促し、まつり会館へ足を運ぶことをきっかけとして街中の周遊へとつながる施策を展開します。

<企画内容(案・例)>

- ・古川祭写真展(祭の今昔を知る写真展)
- ・古川祭VR体験会(VR映像による疑似体験ゾーン)
- ・高岡市御車山祭資料展示会(ユネスコ関連で連携する高岡市との交換展示等)

※実際の内容はプロポーザル提案により決定します。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課 TEL0577-73-7463			予算書	P.106

新規 英語版飛騨市観光Web サイトのリニューアル

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
6,600	一般財源	6,600	委託料	6,500
			報償費	100

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

現在の観光サイト「飛騨の旅」英語版は、開設からかなりの時間が経過していることに加え、自ら編集するシステムが導入されていないことから情報が適宜更新されず、インバウンド観光客が求める情報が発信できていない状況です。

また、インターネット上で飛騨市について英語で発信されている情報がとても少なく、外国人旅行者が飛騨市を目的地として見つけ出せないのも実情です。

こうした状況を踏まえ、訪日外国人旅行者に対して、飛騨市の旬の情報を提供する環境を整えるため、観光サイト「飛騨の旅」英語版の全面リニューアルを行います。

3 事業概要

飛騨高山や白川郷に来ている観光客への訴求に加え、旅前の情報収集にも使えるよう、接触率の高い新たな多言語観光サイトとして制作し、東京オリンピックの開催で日本が注目されているタイミングをとらえて外国人観光客へ向けた情報発信を行います。

運用にあたっては、英語ページとして全体を整備し、定期的に内容をブラッシュアップしながら、順次他の言語にも対応させていくことでサイトの充実を図ります。

また、リニューアルしたサイトでは飛騨地域に在住する外国人がライターとなり、飛騨市に関する記事（季節や食、イベントなど）を投稿してもらうことで、外国人旅行者の目線に立った飛騨市の魅力的な情報を数多く発信します。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課		TEL0577-73-7463	予算書	P.104

【拡充】 飛騨市総合パンフレットのリニューアル

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
5,500	一般財源	5,500	委託料	5,500

(前年度予算 5,000)

2 事業背景・目的

飛騨市の魅力を包括的に紹介する「総合パンフレット」は、情報量も多く、多様な観光客の要望に応えるだけでなく、市側のセールス活動や観光案内の際に活用できる非常に有益なツールとなっていますが、一方で、紙媒体でページ数も多いことから、印刷経費が高額であり配布するには単価も高く、必要とする情報以外の情報も届けてしまいます。加えて昨今のスマートフォンの普及により、大手検索サイトから必要な情報は簡単に検索できてしまうことから、コストパフォーマンスが悪く、ターゲットにあわせた紹介の仕方を検討する必要があります。

これらの課題に対応するため、令和元年度において配布用のダイジェスト版を作成し、飛騨市に対する興味喚起の導入部分を補うツールを整備したことから、令和2年度は、Webサイトも含めた飛騨市を訴求するツール全体の見直しに取り組みます。

3 事業概要

デジタル版総合パンフレットを製作し、情報の更新頻度を高めるとともに紙媒体の配布資料のQRコードなどからの誘導で、旬の飛騨市が伝わる新たなパンフレットへとリニューアルします。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課		TEL0577-73-7463	予算書	P.105

継続 フードダイバーシティの推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】				
900	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">国庫補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">450</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">450</td> </tr> </table>	国庫補助金	450	一般財源	450	委託料 900
国庫補助金	450					
一般財源	450					

（前年度予算 2,150 ）

2 事業背景・目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪万博と世界的イベントが国内で開催されることに伴い、イスラム教徒などハラールの規律を有する国々や、ビーガン、ベジタリアンなど多様なルール・嗜好を持つ訪日外国人観光客が急増すると予想されますが、当市ではこうした方々の受け入れ体制整備がまだ十分ではありません。

食の多様性（フードダイバーシティ）への対応を図り、積極的な誘客対策に取り組むことで、多くの訪日外国人観光客から選ばれる観光地づくりを推進します。

3 事業概要

取組開始から2年目を迎え、多様性対応メニューを導入した店舗のブラッシュアップと情報発信を中心に事業を展開し、訪日外国人観光客の利用促進を図ります。

- ・ 試食会の実施
（在日ムスリム、ベジタリアン等を招へいし、既存メニューに対する意見や評価を徴収）
- ・ 取組店舗に対する指導の実施
（専門家による表示や厨房のチェック）



(款) 7 商工費	(項) 1 商工費	(目) 3 観光費	
所 属	商工観光部観光課 TEL0577-73-7463	予算書	P.106

継続 シェアリング・エコノミーの活用促進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,200	ふるさと創生基金	2,200	委託料	2,000
			補助金	200

(前年度予算 1,700)

2 事業背景・目的

近年、モノや場所、スキルや時間などを多くの人々と共有する新たな経済の形「シェアリング・エコノミー」が注目を集めています。市では、平成30年度より全国に先駆けて過疎地でのシェアリング・エコノミーの取り組みを推進し、未利用空間のシェアやスキルシェアを目的とした民泊と鮎釣り体験モニター等を手掛けてきたことで、宮川町杉原地区ではすでに4軒の民泊登録がされ、実際に宿泊客の獲得につながっています。また、神岡町山之村地区においては、大規模集客行事である山の村だいこんマラソンを機会とし、新たにイベント民泊（2軒）の実績を生み出しました。

今後は、他地区への更なる拡充を検討するとともに、受付窓口の一元化やAirbnb*などのオンラインプラットフォームの本格導入、鮎釣り体験を始めとするそこでしか体験できない宿泊の目的となるコンテンツの構築など、シェアリング・エコノミーを活用した過疎地域における自立的経済活動をより一層推進します。

*Airbnb…空き部屋を貸したい人と借りたい旅人をつなぐ世界規模のweb サービス

3 事業概要

① 地域資源を活用した里山体験事業（2,000千円）

宮川町杉原地区において、全国のモデルとなる民泊等受付一元的窓口「中間支援組織（仮称）」を住民主体で構築するための支援を続けるとともに、旅の目的となる地域住民個々が有するスキルを活用した体験型商品の充実を図る取組みを実施します。また、神岡町山之村地区などでイベント民泊を開催します。

② 観光客の利便性向上のためのカーシェアリング推進（200千円）

㈱日産自動車e-シェアモビと連携し、公共交通機関の少ない市内宿泊施設等の利用を条件に利用料金を割り引き、その差額を市が補てんすることで観光客の利用を促進します。(2,000円/件・利用条件あり)

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課	TEL	0577-73-7463	予算書	P.106

【拡充】 古川まつり広場を活用した新たな魅力の創出

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
7,700	県補助金	3,000	工事請負費	6,000
	国庫補助金	850	委託料	1,700
	一般財源	3,850		
(前年度予算 5,800)				

2 事業背景・目的

従来、旅行の目的であったショッピングや飲食などの「モノ消費」に加えて、昨今は現地ではできない体験などの「コト消費」に旅行者ニーズが移行しつつあります。ショッピングできる場所が少ない飛騨市にとっては、これを好機ととらえ、新たな体験コンテンツを造成し、磨き上げていく必要があります。

中でも市内には良質な農産物等が多く生産されていることから、これらを活用して、体験型の旅行商品を市内事業者と共に造成・紹介することで、消費者に良さを理解していただくためのブランディングを進め、より多くの人々から選ばれる観光地づくりに取り組みます。

3 事業概要

① 【新規】古川まつり広場の活用したイベント等の試験実施 (6,000千円)

古川まつり広場に電源設備を常設することで、手軽に飛騨市の商品や体験が販売できるマーケット環境を整備し、社会実験として月一マルシェの開催などを行います。

② 【継続】ハーベストディナーの開催 (1,700千円)

まちなか観光の中心地である古川まつり広場を中心として、ナイトタイムエコノミー（夜間の経済活動）を活性化するため、飛騨の食材が見える形で観光客等に披露する屋外レストランを開催し、在京×地元レストランシェフなど、地元食材を活用したコラボ料理を提供します。

また、この機会を利用してインフルエンサーやメディアを招聘するなど、プッシュ型による情報発信・拡散を狙います。

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課 TEL0577-73-7463			予算書	P.106

継続 飛驒みんなの博覧会の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】										
4,666	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">国庫補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,330</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">2,336</td> </tr> </table>	国庫補助金	2,330	一般財源	2,336	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">委託料</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">4,400</td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td style="text-align: right;">260</td> </tr> <tr> <td>交際費</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> </table>	委託料	4,400	役務費	260	交際費	6
国庫補助金	2,330											
一般財源	2,336											
委託料	4,400											
役務費	260											
交際費	6											
(前年度予算 4,504)												

2 事業背景・目的

昨今の観光スタイルは“モノ消費”から“コト消費”へと移り変わり、体験を通じて地域の人や文化を知ること、その地のファンになる傾向にあります。

そこで、市民自らが仕掛け人となり開催する体験プログラム「飛驒みんなの博覧会」では、魅力ある地域資源の掘り起こしや市民の活躍機会の創出を通じ、元気で誇りある飛驒市を市内外に発信することを目的として、平成29年2月のプレ開催の10プログラムからスタートし、プログラム数の増加を図る中で令和元年度には69プログラムまで増え、新たに地域独自の農業体験など飛驒市ならではの体験プログラムを造成することができました。

今後も継続的に事業を拡充しながら各イベントの認知を高め、市民や観光客が楽しめる体験プログラムの提供により、滞在時間の延長と着地型観光の推進を図ります。

3 事業概要

令和2年度は、過去のプログラムのブラッシュアップの他、年間通して実施可能なプログラムを常設開催に切り替え、専用Webサイトに通年サイトを追加します。

それにより、飛驒みんなの博覧会を通じ市内外へ飛驒市の魅力を発信するとともに、観光商品としての定着化を目指します。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課	TEL	0577-73-7463	予算書	P.105

拡充 ロケツーリズムの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,416	一般財源	2,416	委託料	1,180
			負担金・補助金	920
			その他	316
(前年度予算 5,630)				

2 事業背景・目的

映像作品の舞台として描かれている地域には、「聖地巡礼」と称して作品のファンが大挙して訪れるなど、いまやシティプロモーションにつながる施策として全国の自治体がロケ誘致活動を展開しています。しかしながら、地理的な面から製作会社が多数所在する東京圏周辺の自治体にロケ地が偏る傾向があり、距離が遠い飛騨市へ誘致するためには、業界関係者との関係構築と的確な情報発信が不可欠となっています。

このため、ロケツーリズム協議会など、製作者サイドと強力なコネクションを有する団体と連携し、ロケ誘致につなげる支援策を推進します。

3 事業概要

①【新規】ぎふロケツーリズム協議会による事業展開 (100千円)

令和元年8月に県内連携組織である「ぎふロケツーリズム協議会」を本市が事務局となって発足させたところであり、県内関係自治体連携のもと受入体制の勉強会や商談会などを展開し、更なるロケ誘致を進めていきます。

②【継続】ロケツーリズムの推進 (2,316千円)

プロデューサーや映画監督など、映像制作関係者の招へい・受入支援などを通じて、関係団体とのリレーションを継続的に構築し、ロケ地として選ばれる地域になるよう引き続き取り組んでいきます。

また、市内で行われるロケーション活動等に対して補助金を交付します。

- ・ロケ活動補助金 対象経費の1/2・上限50万円
- ・映画上映会補助金 映像使用料の補助上限10万円／1作品 (最大30万円まで)

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課 TEL0577-73-7463		予算書	P.104	

継続 大学観光学部等との連携強化

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
800	一般財源	800 旅費

(前年度予算 1,472)

2 事業背景・目的

古川町市街地は、従来から比較的中高年齢層に好まれる観光地であることから、若年層の観光客再訪に向けた課題解決と将来へとつながる飛騨市ファンの獲得を図るため、平成30年度より立教大学を始めとする観光学を学ぶ学生のインターンシップを受け入れ、学生提案に基づくSNSを活用した政策の実践、20代の若者に好まれる観光地づくりの提言、学生目線での強み・弱みの調査、同年代への情報発信など、若者ならではの意見を取り入れてきました。

令和2年度においても、各大学との連携を深め、幅広く学生の意見を取り入れる体制整備を推進します。

3 事業概要

① 新たな観光資源の発掘と情報発信 (800千円)

- ・ 連携する大学を拡充し、飛騨市観光の新たな展開を推進します。
- ・ 立教大学、目白大学ほか東京方面の大学より学生10名程度を招聘予定
(個人でのインターンシップやゼミ・研究室単位での受入れを想定)



② 祭屋台位置情報発信システムの本格導入 (観光協会委託費の内数)

名古屋大学大学院情報学研究科と連携し、平成30年度より古川祭における祭屋台の位置情報をリアルタイムで発信できるシステムの実証実験を重ねてきましたが、最終年度と位置付ける令和2年度は、これを広く一般観光客に公開し、古川祭を機能的に楽しんでもいただける仕組みを提供します。

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課 Tel.0577-73-7463			予算書	P.105

継続 合宿・大会等の誘致推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
10,000	ふるさと創生基金 10,000	補助金 10,000

(前年度予算 10,000)

2 事業背景・目的

市内施設を利用するコンベンションは、数河・流葉・黒内地区で開催されるスポーツ大会が大多数を占めており、また、これらのほとんどが夏期中心の開催であることから、春や秋の閑散期の利用が期待できる音楽合宿などの年間を通して市内施設を利用していただけるようなコンベンションの積極的な誘致を図ってきました。

今後も地域資源等の様々な楽しみ方の発信に努め、新規需要を獲得し、市内各施設の利用促進に取り組みます。

3 事業概要

大学や旅行会社などに対する営業活動を推進し、更なる市場開拓を図ります。

<支援内容（人数等の条件あり）>

- (1) 大会・会議・学会・研究会・文化芸術活動・スポーツ大会・合宿等
 宿泊費補助 1,000円/人（上限100万円）
 入浴券補助 1人につき100円（5年目以降継続特典として市内食事券を進呈）
- (2) スポーツ大会・合宿以外のコンベンション
 (1)に加え、会場使用料を全額補助（上限10万円/回）
- (3) 音楽大会・合宿
 (1)と(2)に加え、機材運搬用車両に係る交通費を全額補助（上限1万円/回）
- (4) コンベンション誘致活動を行う市内団体に対する支援
 必要経費の1/2以内を支援（上限5万円/回）



(款) 7 商工費	(項) 1 商工費	(目) 3 観光費	
所 属	商工観光部観光課 TEL0577-73-7463	予算書	P.107

拡充 飛騨市観光大使の活用

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
540	一般財源	540	報償費	400
			旅費	100
			需用費	40
（前年度予算 40 ）				

2 事業背景・目的

飛騨市観光大使は、市の文化、歴史、自然資源及び地域特性を活かした地域ブランド並びに観光情報を国内外に広く発信し、観光振興とイメージアップを図るため、平成25年に設置し、これまで18名の方に就任いただいています。

しかしながら、これまで委嘱されている観光大使の中には、まちづくり活動に対する功労的な意味合いによる委嘱の方もみえることから、市としての観光大使本来の活動について取り組みが進んでいない状況です。

このため、観光大使についてはその役割を改めて整理し直し、広く訴求効果が期待できる方については、広報手法等を十分検討し、活用していく必要があります。また、本市と関わりがあり飛騨市のイメージアップと認知向上が期待できる方については、新たな観光大使として選定することも併せて進めていくことが必要です。

3 事業概要

委嘱済みの観光大使の中でも、特に広域的な広報手段を持ち、市のイメージアップと認知向上に活躍していただける方を有効活用するため、イベント時等にその場に招聘し、観光客や市民との交流の機会を創出するとともに、その活動をSNS等で発信します。

また、WEBサイトやパンフ等にも登用し、飛騨市のイメージアップと認知向上につなげていきます。

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課		TEL0577-73-7463	予算書	P.104

継続 観光人材の育成

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
276	国庫補助金	138	報償費	150
	一般財源	138	旅費	126

（前年度予算 0 ）

2 事業背景・目的

市内には自ら地域経済をけん引していこうとする人材が少ないことから、まずは市民レベルでの意識を高揚させていくため、観光マーケティングセミナーや勉強会などを開催し、必要な知識の醸成を図るとともに中核を担う人材の掘り起こしを進めてきたところですが、中長期的に自らDMO等の組織化を求めるような機運の高まりまでには至っていません。

このため、引き続き意識の共有化を図りつつ、他方で意欲のある者同士が交流する機会を創出するなど、市民の中に徐々に地域経済活性化に対する目的意識を明確化させていく取り組みを推進します。

3 事業概要

○ 観光マーケティングセミナー等の開催（276千円）

業種に特化した儲ける仕組みづくりのセミナーに加え、終了後には参加者同士での交流会などを開催します。相互に意見交換することで、新たな刺激や発案を生み出すとともに、経済活性化に向かうための意識付けを行い、DMO構築に向け地域一体となった機運醸成に取り組めます。

<開催内容>

- ・観光マーケティングセミナー 3回開催
- 稼げる地域づくりに精通した有識者を招いた勉強会等



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課		TEL0577-73-7463	予算書	P.104

継続 観光客の動向実態調査

1 事業費 （単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
1,659	一般財源	1,659
		委託料 1,599
		需用費 60
（前年度予算 5,065 ）		

2 事業背景・目的

近年、日本人の国内旅行はシームレス化が進む一方で、インバウンド観光客はディープな地域体験や異文化の日常体験を求める傾向にあり、新たな旅行ニーズの発掘とインフラの整備はもとより、観光客の動向をつかんで政策に反映する“マーケティング力”の優劣が観光誘客の鍵を握っています。

こうしたマーケティング対策の一環として、産官学連携による飛騨市役所本庁舎前でのIoTを活用したナンバー認証実証実験を令和元年7月より本格導入し、飛騨市に車で訪れる観光客の動向の把握と分析に取り組むとともに、地域通訳案内士を利用したインバウンド観光客へのヒアリング調査、駐車場の定点調査などを絡め、観光客の動向データ収集に努めてきたことで、徐々に観光客の動向実態が判明しつつあります。

令和2年度も引き続きデータ収集・分析に取り組み、またインバウンド観光客の市場動向・トレンドをいち早く捉えた観光マーケティングを進め、政策への反映を図ります。

3 事業概要

① IoTを活用した車両ナンバーの認証と分析（720千円）

令和元年度に整備した市役所前駐車場に流入する車のナンバー認証システムを継続運用し、年間を通じた自家用車による流入観光客の動向の把握と分析を行います。

② インバウンド観光客へのヒアリング調査（600千円）

飛騨地域3市1村で共同運用する地域通訳案内士を活用したヒアリング・定点調査を行います。

③ 駐車場台数調査及びアンケート調査（339千円）

飛騨市役所前駐車場、若宮無料駐車場、神岡町宙ドーム前駐車場の定点調査、アンケートはがきによる動態調査を行います。

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課		TEL0577-73-7463	予算書	P.105

新規 飛騨市観光戦略プランの策定

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
124	一般財源 124	旅費 74 報償費 50

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

昨今の観光客のニーズの多様化及びインバウンド観光客の増加などを背景として、これまで以上に交流人口拡大・域内消費の増加を目的とした観光戦略の必要性が高まっています。

当市では平成24年度に飛騨市観光ビジョンを策定していますが、その後継続的な評価・見直し等が行われていないことから、新たに市民にもわかりやすい実効性のある観光戦略の策定を行います。

3 事業概要

これまでの観光動態調査結果を踏まえて、観光事業者、地域住民や市街有識者等を巻き込んで現場の意見を反映した実効性のある戦略を策定します。

なお、当該戦略策定に際しては、内外の有識者で組織する検討委員会を発足させ、多様な意見を反映させていきます。

※今後の見直しスパンは3～5年程度を予定。



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課		TEL0577-73-7463	予算書	P.104

継続 まちのみだしなみ整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
6,000	一般財源	6,000
		工事請負費
		需用費
		5,000
		1,000

(前年度予算 6,000)

2 事業背景・目的

観光客が自家用車で観光地等へ向かうにあたり、案内看板は非常に重要な役割を担うと同時に地域のイメージにもつながることから、まちの身だしなみを整えるため、平成30年度に市内の既存看板を点検調査し、整備方針を策定したところです。

今後も計画的な整備を進めるとともに、破損や根本的な改善の必要がある看板については順次修繕・撤去をするなど、見た目も機能的にも改善を図り、観光客の利便性の向上に努めます。

3 事業概要

市内看板等修繕計画に基づき、計画的に修繕・撤去を実施していきます。

<今後の予定>

令和2年度 なかんじょ川の看板張替え他11ヶ所を予定

令和3年度 神岡町・富山県境看板基礎撤去を予定

令和4年度 対象箇所を再調査後、その後3年間の修繕計画を策定予定



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	商工観光部観光課	TEL	0577-73-7463	予算書	P.105